

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年4月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690102308
法人名	有限会社 コンフィアンス
事業所名	グループホーム 草牟田
所在地	鹿児島市草牟田二丁目9番30号 (電話) 099-210-7734
自己評価作成日	令和5年3月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢者が住み慣れた地域での生活を継続するために、身近な生活圏域として立地しています。
 コロナ禍の中、面会や外出制限もありますが、リビングの窓越しにお顔を見せたり、1階にある会議室にて窓越し面会を行ったりしています。
 今年は、行事としてのお花見外出も行いました。だんだんとコロナウィルス感染も落ち着いてきているようですので、今後は日常生活の中に、外出や散歩も取り入れられるよう努めていきたいと思えます。
 入居者が個々の尊厳と生活の質を保ちながら、幸せな生活を送ることができ、ご家族の皆様も安心していただけるよう、日々研修を重ねています。

- ・当事業所は1階に多目的室が有り、現在会議などで使用している。今後、認知症カフェ又は子供食堂等の活用を検討中である。
- ・事業所の理念である「人間性を尊重し、公平・平等な介護を行う」を基に、管理者や職員は利用者が自分のリズムと想いを大切にゆったりと自由に過ごせるよう関わっている。また、夜間帯もよく話を聞き家族にも報告し情報を共有している。
- ・コロナ禍で外食や外出支援が難しく、利用者に満足してもらえる為「食」の要望に応え、デリバリーを活用し会席料理弁当・フライドチキン・寿司・ピザなどを取り寄せ、職員も同じものを食し一緒に楽しめる支援をしている。
- ・事業所はグループホームはららのサテライト事業所となり、2つのグループホームはラインで情報共有する等、常に連携・協力体制を築いている。
- ・管理者やケアマネージャーはリーダー会議や職員研修・勉強会を実施し、職員の育成に力を注いでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの精神を基に、社内研修等で理念に基づき、情報を共有し実践に努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を、多目的室と各フロアに掲示している。職員は情報を共有し、入居者にあわせ、考えてケア実践している。社内研修、合同会議、ミーティングで理念を確認し合い共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	コロナ禍である現状は、地域との交流は困難であるが、2か月に1回開催される運営推進会議の中で民生委員と情報の共有を行っている。	町内会に加入し運営推進会議で民生委員と情報共有を行い、町内会長も事業所への訪問があり、コミュニケーションを図っている。看護学校の実習生を受け入れたり、ホーム周辺を毎日清掃している。散歩時の挨拶等の交流をしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	コロナ禍であるが、電話や来訪にて相談を受けた際には、認知症の中核症状や周辺症状等の説明を行う等し、地域の事業所としての役割に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの感染者の発生状況や県や市が示す対策の方針等の応じて、可能な限り運営推進会議を開催している。 尚、11月からは、本体事業所と合同の運営推進会議を開催している。	定期的に会議を開催し1回のみ書面開催している。利用者状況やヒヤリハットなど事業所の活動を報告し意見交換している。書面開催時も資料を手渡し意見ももらっている。意見は事業所の対応について説明し、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>管理者は市町村担当者に事業所の考え方や、運営や実情等を市町村に出向き考え方や運営の実態を共有している。事故については必ず報告している。</p>	<p>市担当者とは書類申請や更新、オムツ助成等で窓口に出向いたり、電話で相談し助言を貰っている。生活保護担当者の訪問時は生活状況を伝え情報共有する等、日頃から協力関係にある。地域包括支援センターとは運営推進会議で意見や情報等を得ている。市主催の研修にはオンラインで参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>外部研修・内部研修を受け、身体拘束は禁止という認識を持ち、確実に守られている。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に実施し、マニュアルに基づいて研修会や外部研修で学び、具体的な行為を正しく理解し、身体拘束は禁止という認識を持っている。事故防止の為の意見交換や車椅子を置く位置の確認等を共有している。外部からの出入りが多い為、警察の助言もあり玄関の施錠をして外出希望の際は傾聴し、一緒に散歩する等、個々人に応じて対応している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止法に基づき、研修で繰り返し学んでいる。日常から、虐待について注意を払い、見過ごされることがないように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>内部研修により勉強会を行い、後見人制度や高齢者虐待についての勉強会を行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約締結や解約時、改定の際は、十分な時間を取り、事業目的や需要事項説明を丁寧に行い、ご理解をいただいている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご利用者様へ日頃より意見や要望等を聞き、管理者やケアマネージャー、職員と話し合い改善に努めている。ご家族には状況報告時に意見や要望等の把握に努め、運営に反映させている。</p>	<p>日頃の関わりの中で利用者から意見や要望等を聞いている。家族からは状況報告時や電話で意見や要望を聞く機会を設けている。面会や外出の件等について、対面面会可能や抗原検査などの結果で外出可能としている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>「気付きシート」を活用し、フロア会議等で繁榮させている。また、受持、職員の意見や提案等を聞き、運営に反映させている。</p>	<p>管理者はフロア会議や申し送り、日々の関わりの中で意見を聞く機会を設け、代表者と相談している。個々の意見や提案・気付きシートを活用し、シフト変更や業務移動等、運営に反映している。管理者は年1回面談したり、相談にも対応し働きやすい環境作りに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は、職員の勤務状況や労働時間等の報告を受け、各自が意欲向上に向かえるような職場環境の整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、管理者が立てた内部研修・外部研修計画に基づき、研修の機会を確保できるよう、日頃から職員を育てる取り組みを進めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍の中、地域の事業者間の交流会は減少しているが、オンラインの研修会等の機会の確保に努めている。その中で、同業者との意見交換、情報共有を行い、サービスの質を向上させていくよう取り組みを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用について相談があった場合は、事前面談を行い、生活状況、心身状態、本人の思い等に向き合い、入居後の信頼関係をスムーズに築く事ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前の面談においては、ご家族とのコミュニケーションを大切にしている。ご家族の困っている事や不安な点、ご家族の要望等について、時間をかけて話を伺い、今後の関係づくりに繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用相談時は、ご本人やご家族の状況等を確保し、現時点での必要なサービスを提案できるよう努めている。必要があれば、他事業所の紹介や仲介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かした支援を心がけている。その方に見合った家事を行えるよう声掛けや環境整備を行っている。又、共に生活している者同士、職員とご利用者の関係が対等な立場となるよう意見を言い合える関係作りに務めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中、直接ご利用者様と関わる機会は減っているが、日頃より状況報告を行い、ご家族様と一緒に介護を行っていただけるよう協力を依頼している。受診介助や面会、電話等を通して、ご家族様との絆を繋げている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話、手紙等の支援を行い、馴染みの関係が途切れないよう支援している。又、少しずつではあるが、外出できるよう計画し、実行できるよう努めている。	コロナ禍の為、窓越し面会や予約制で対面面会・電話・手紙の取次支援をしている。毎月、利用者の暮らしを便りで郵送報告し、家族と管理者はメールのやり取りで状況報告を行っている。感染対策を行い家族の協力で自宅への外出・墓参り支援等、馴染みの人や場所との関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、常に利用者間との関係の把握に努めている。リビングの座席等も考慮し、日中楽しく過ごしていただくように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は、退居後の病院や施設に情報提供を行い、ご本人やご家族様の意向も伝えている。又、サービス終了後も必要に応じて相談や支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアマネージャーが中心となって、ご本人の意向の把握に努めている。又、ご本人の意向は、会議やソーシャルメディアを活用し、職員間で情報共有を行っている。	日々の関わりの中で利用者はケアマネージャーや管理者に「～して欲しい」「どこか行きたい」等、自分から積極的に意見や思いを話している。意思疎通が難しい場合は話しかけると首を振ったり、表情や体の動きなど、職員間で情報を共有し、気持ちよく過ごせるよう本人本意に検討しケアに関わっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始の際は、管理者やケアマネージャーが情報提供書による把握やご家族様、関係者からの生活歴を聞き取り、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報は、管理者やケアマネージャーが詳しく聞き取りを行っている。入居後は、心身状態の変化を見逃さず、現状を総合的に把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のフロア会議にて職員の意見を出し合い、一人ひとりの課題について検討している。又、主治医や訪問リハビリの先生からもその都度アドバイスをいただき、介護計画に反映させている。	本人や家族の意見や要望、フロア会議での職員の意見・課題について話し合い、主治医や看護師・訪問リハビリからの意見、持てる力・起床や就寝時間など反映させて介護計画を作成している。モニタリングは6ヶ月毎で見直している。状況変化時はその都度見直し現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、日々の様子や気付き等を個別記録に残し、情報共有を行っている。ケアマネージャーは、それらを介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様の要望に応じて、通院や外出、買い物等の支援を行う等し、個々の利用者様のその時々に必要な支援に柔軟に対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中、地域資源の活用はなかなか難しいが、コロナ終息の折には地域とのかかわりを深めていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を確認し、ホームの協力医や訪問診療を行う病院の説明を行った上で、納得のいくかかりつけ医の選択ができるよう支援を行っている。医療機関とは、24時間体制で相談・報告を密に行い、信頼関係を築いている。	契約時にかかりつけ医を確認し往診での支援や定期的な訪問診療、週1回の看護師による健康チェックを行い、複数の協力医療機関と24時間医療連携体制で相談・報告を密に行い、関係性を築きながら適切な医療が受けられるよう支援している。歯科医の定期的な訪問診療と必要時の往診があり他科受診は基本家族対応であるが職員が対応することもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回の看護職員との医療連携においては、情報共有を行いながら、利用者様の体調不良時に適切に対応できるように努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院となられた場合は、医療連携室や看護師、医師と連携を取りながら、早期退院と適切な治療が受けられるように努めている。又、退院後は安定した生活が送れるよう必要な支援等について医療との連携がとれるよう関係づくりを行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に、重度化した場合や終末期についての事業所の方針を説明し、ご本人やご家族様の意向を伺っている。又、入居時に「延命措置に関する意思確認書」の記入をお願いしている。</p>	<p>入居契約時に事業所の方針に沿って説明し、同意書を貰っている。入居時に「延命措置に関する意思確認書」に記入依頼している。重度化し状況に応じて主治医に終末期をどのように過ごすかの相談を行い、家族への病態説明後、話し合いを行ない方向性を確認している。家族の希望を確認して医療機関への転院等の対応もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時には全職員が対応できるように、定期的に研修を行い、緊急時の対応方法や連絡方法についてはフロアに掲示し周知している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>職員研修にて災害対策の研修を行ったり、利用者様と一緒に定期的に訓練を行っている。又、運営推進会議等で、地域の方への協力もお願いしている。災害発生に備えて、食料品や飲料水の備蓄、必要物品の準備も行っている。</p>	<p>年2回昼夜想定防災訓練を予定し、自主訓練で火災での避難誘導訓練を行っている。避難場所は玄関前スペースや防火扉の外としている。消防署立会での防災訓練は年度末に予定している。運営推進会議等で地域住民の協力体制を検討している。備蓄はご飯・おかず等のレトルト食品・菓子類があり、今後缶詰など準備していく。カセットコンロ・懐中電灯・防災頭巾・オムツ等の介護用品も用意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>内部研修でプライバシー保護や人格の尊重について繰り返し学んでいる。職員同士で、常日頃から会話、言葉遣いに十分注意を払うよう気を付けている。</p>	<p>毎年、接遇マナーについて研修を行い、プライバシー保護や人格の尊重についても繰り返し学習している。日々の関わりの中で職員の会話や言葉遣いについて注意している。排泄や入浴時、個々に応じて対応している。呼称はさん付けで声かけしている。衣類等の選択は自己決定できるようにしている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日常生活の中で、それぞれのご利用者様の思いやして欲しい事・したい事等を話しやすい雰囲気づくりに努めている。又、ご利用者様へ希望を伺うよう気を配っている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、個々の性格やペースの違いに配慮し、できる限り個別性のある支援に努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>好みの服を着たり、ご自分で化粧ができる方はそれぞれ行っている。又、物品購入の支援も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は作らず、その日の利用者様のリクエストに応えたメニューを取り入れたり、誕生日会や行事は利用者様と一緒に考えたりと臨機応変に対応できるよう心がけている。又、簡単な作業のお手伝いはお願いしている。	利用者の好みや職員の得意な献立を調理し、利用者の状態に応じて普通食や刻み食・代替食で提供している。季節行事食の季節はデリバリーと手作りを盛り合わせている。誕生日は好きな物を聞き、ケーキとコーヒーやお茶でお祝いしている。食べるのが楽しみとなるよう工夫している。個々に応じて食材を切ったり盛りつけなど一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に個々の状態を把握、記録している。状態にあった水分量、食事量を提供している。嫌いな食べれない物を把握し対応している。又、自己摂取が困難な方には食事介助を行い、必要に応じて補助食品等も利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居後、協力歯科による検診をお願いし指導を受けている。毎食後は、口腔ケアの声掛けや介助を行っている。又、ご利用者様の状態や希望に応じて、訪問歯科による定期的な口腔ケアも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄機能を活かし、ご利用者様の状態に応じた排泄の支援を行っている。排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握やトイレ誘導を行いトイレでの排泄を促している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、それぞれの時間帯でトイレ誘導し、個々に応じて排泄支援をしている。自立の利用者には見守り支援をしている。夜間帯はテープ式おむつやポータブルトイレの使用もある。テープ式オムツからトイレでの排泄になった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便状況を把握している。オリゴ糖や水分をとっていただいたり、主治医に相談し個々に応じた便秘薬の使用を行っている。又、トイレ誘導や体を動かすことで、排便の促進にも気を付けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	ご利用者様のその日の状態や希望に応じて入浴を支援できるよう努めている。一人ひとりの習慣や好みを職員で共有し、個別にあった入浴の支援を行っている。又、羞恥心・恐怖心へ配慮し、言葉かけや対応の工夫も行っている。	週3回午前中に入浴支援している。シャワー浴や足浴支援もしている。湯温も希望に応じて対応し、同性介助での支援もある。入浴拒否がある場合は、声掛けの工夫、職員交代、無理強いはせず、機嫌の良いタイミングで入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の時間はご本人の希望に沿った時間となるよう努めている。夜間、テレビを見たりお話をしたりして過ごされる方もおられる。又、日中の活動を促し、生活リズムが整えられるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表にて薬の用法、用量、副作用を確認できるようにしている。薬は一人ひとり薬箱に入れ、服薬時は名前・服薬時間を読み上げ、飲み込まれるまで確認している。ご本人の状態に変化がみられた場合は主治医に相談し、適切な薬の服用について支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	潜在している記憶やできる力を最大限に活かして日々を過ごせるよう努めている。得意な仕事を頼み感謝の言葉を伝えたり、外出や行事等をご利用様と相談しながら行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の中、外出の機会は少ないが、秋の花見は行うことができた。現在は、ご家族との病院受診を行ったり、感染対策を行ったり、ご家族との外出を行ったり、自宅へ帰られたりできるよう支援を行っている。暖かくなったら、散歩や外出も計画している。	年間行事計画は作成しているが、コロナ禍で外出機会は少ない。天気の良い日は散歩等で、日光浴や外気浴支援を行い、秋にはコスモス見物に出かけている。家族の協力で定期受診で週1回自宅に帰ったり、墓参り支援を行っている。室内でできるレクリエーションを楽しめるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍により、ご利用様が直接買い物を行うことはできなかつたが、個々のご利用者様の希望される買い物等の支援は随時行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を持っていらっしゃる方には、充電の声掛けや電話使用の支援を行っている。又、職員の電話を使用しテレビ電話を行ったり、切手やはがきの購入を行い、日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所には仕切りがなく、ご利用者様が自由に出入りできるよう配慮している。又、調理の音や匂いを感じながら、家庭的な雰囲気でも過ごすことができるよう支援している。清潔や室温・湿度にも気を付け、居心地よく過ごせる空間となるよう努めている。季節に合わせた飾りつけも行っている。	フロアに対面式のキッチンが有り、空気清浄機を配置し、換気を行い、ブラインドで調整しながら日当たりの良い採光と室温・湿度もエアコンで調整し、居心地のよい環境作りに努めている。季節に合わせた合作の壁画や書き初め等の作品を飾り、観葉植物も置いている。テーブルや椅子・ソファ・テレビを配置し、それぞれの場所で居心地よく過ごせる空間作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様個々の状態の変化やご利用者様同士の関係性等に配慮し、座席やテーブルの位置を変えている。又、リビングにはソファを設置し、くつろげるスペースを作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時ご家族とお話しをさせていただき、写真や思い出の品、馴染みの物などを用意していただくようお願いしている。入居後も、必要に応じてご本人が希望する品物を持ってきていただくなどし、本人が居心地よく過ごせるように配慮を行っている。</p>	<p>居室には鏡付きの洗面台が有り、ベッド・タンス・エアコン・コルクボードを設置している。寝具類はリースで、希望でタオルケットや毛布等を持ち込んでいる。冷蔵庫・タンス・テレビ・仏壇・位牌・遺影・ぬいぐるみ等があり、人形や家族写真を飾り、俳句の会の定期購読や雑誌・携帯電話を持参する等、本人が自由に安心して過ごせる居室作りをしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ご利用者様が安全で自立した生活が送れるように、身体機能の変化等に考慮し、職員で話し合いながら生活環境の改善に取り組んでいる。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない